

新登録答申文化財概要（三重県）

● 糶屋太郎兵衛商店店舗兼主屋 ほか3件 （松阪市）

【名称】 糶屋太郎兵衛商店 店舗兼主屋・道具蔵・奥蔵及び米蔵・糶室 計4件
(こうじやたるべえしょうてん てんぼけんおもや・どうぐぐら・おくぐらおよびこめぐら・こうじむろ)

【種別】 国登録有形文化財（建造物）

【所在地】 松阪市魚町

【年 代】 店舗兼主屋：明治26（1893）年頃／昭和45（1970）年頃改修
道具蔵：土蔵 安政2（1855）年／蔵前 明治26（1893）年頃
奥蔵及び米蔵：土蔵 明治26（1893）年／蔵前 明治26（1893）年
糶室：明治26（1893）年頃

【建築面積】 店舗兼主屋 96 m²、道具蔵 44 m²、奥蔵及び米蔵 61 m²、糶室 16 m²

糶屋太郎兵衛商店は、旧松坂城下町の魚町（うおまち）にあり、旧長谷川家住宅（重要文化財）や本居宣長宅跡（特別史跡）のある街並みの歴史的景観を形作っています。江戸時代から代々糶製造販売を行ってきた商家で、屋号を糶屋とし、歴代当主は太郎兵衛もしくは太良兵衛を名乗っています。

明治26年の松阪町大火後間もない時期に再建された店舗兼主屋は、切妻（きりづま）屋根の二階建てで、表構えは一階に出格子（でごうし）、二階に出窓と虫籠窓（むしこまど）がみられます。土間や「みせ」、仏壇や神棚が作りつけられた「だいどこ」などがあり、明治時代中期における伝統的な松阪の町家形式を示しています。江戸時代末期の安政2年に建てられた道具蔵は、明治26年の大火を免れた建物で、切妻屋根の二階建てです。道具蔵の前には、糶の製造に用いる「糶蓋」（こうじぶた）を洗う場所がありました。奥蔵及び米蔵は切妻屋根の二階建てで、店舗兼主屋と同じ頃に再建されました。木造平屋建ての糶室は、壁面と屋根全体をかまぼこ状に漆喰塗り仕上げした外観が特徴的で、現在も糶造りが行われています。

糶屋太郎兵衛商店は、江戸時代から続く商家の風情を今に伝える貴重な事例です。



店舗兼主屋 外観(南西から)



店舗兼主屋 店舗内部



道具蔵 外観(南西から)



奥蔵及び米蔵 外観(西から)



糶室 内部



糶室 外観(南東から)

● 伊賀鉄道上野市駅舎 ほか3件 (伊賀市)

- 【名称】 伊賀鉄道 上野市駅舎・桑町跨線橋・小田第二暗渠・小田拱橋 計4件
(いがてつどう うへのしえきしゃ・くわまちこせんきょう・おただいにあんきょ・おたこうきょう)
- 【種別】 国登録有形文化財(建造物)
- 【所在地】 上野市駅舎: 伊賀市上野丸之内
桑町跨線橋: 伊賀市上野桑町
小田第二暗渠・小田拱橋: 伊賀市小田町
- 【年代】 上野市駅舎: 大正6(1917)年
桑町跨線橋: 大正11(1922)年
小田第二暗渠・小田拱橋: 大正5(1916)年
- 【建築面積】 上野市駅舎 139㎡、桑町跨線橋 13.4m、小田第二暗渠 8.0m、小田拱橋 6.2m

伊賀鉄道は、JR関西本線「伊賀上野駅」と近鉄「伊賀神戸駅」を結ぶ延長16.6kmの鉄道で、大正5年に伊賀軌道として「伊賀上野駅」から「上野町駅」の路線が開業しました。大正11年に全線が開通し、大正15年に電化されました。

上野市駅舎は三階建ての駅舎で、一階はコンコースと駅務室、二階は駅員の仮眠室等として使われています。屋根は急勾配の腰折(こしおり)屋根で、上から見ると十字形を呈した独特の形をしており、外壁はモルタル塗りで仕上げられています。上野市駅舎は伊賀の近代化を示す建物であり、中心市街地のシンボルとして市民に親しまれています。

沿線にある桑町跨線橋は煉瓦造りのアーチ橋で、橋の上を市道桑町工業高校線が通っています。

小田町地内の路線では、暗渠や橋が造られました。小田第二暗渠(市道山之下西出線)は、花崗岩(かこうがん)を積み上げた橋脚の上に、同じく花崗岩の切石を載せて造られています。小田拱橋(市道明治屋敷鍵屋辻線)は、花崗岩を積み上げた橋脚の上に煉瓦をアーチ状に積み上げ、花崗岩の要石(かなめいし)で固めています。跨線橋・小田第二暗渠・小田拱橋は、今なお親しみ使われ続けている歴史的建造物です。



上野市駅舎(南東から)



桑町跨線橋(南から)



桑町跨線橋(南から)



小田第二暗渠(西から)



小田拱橋(東から)